

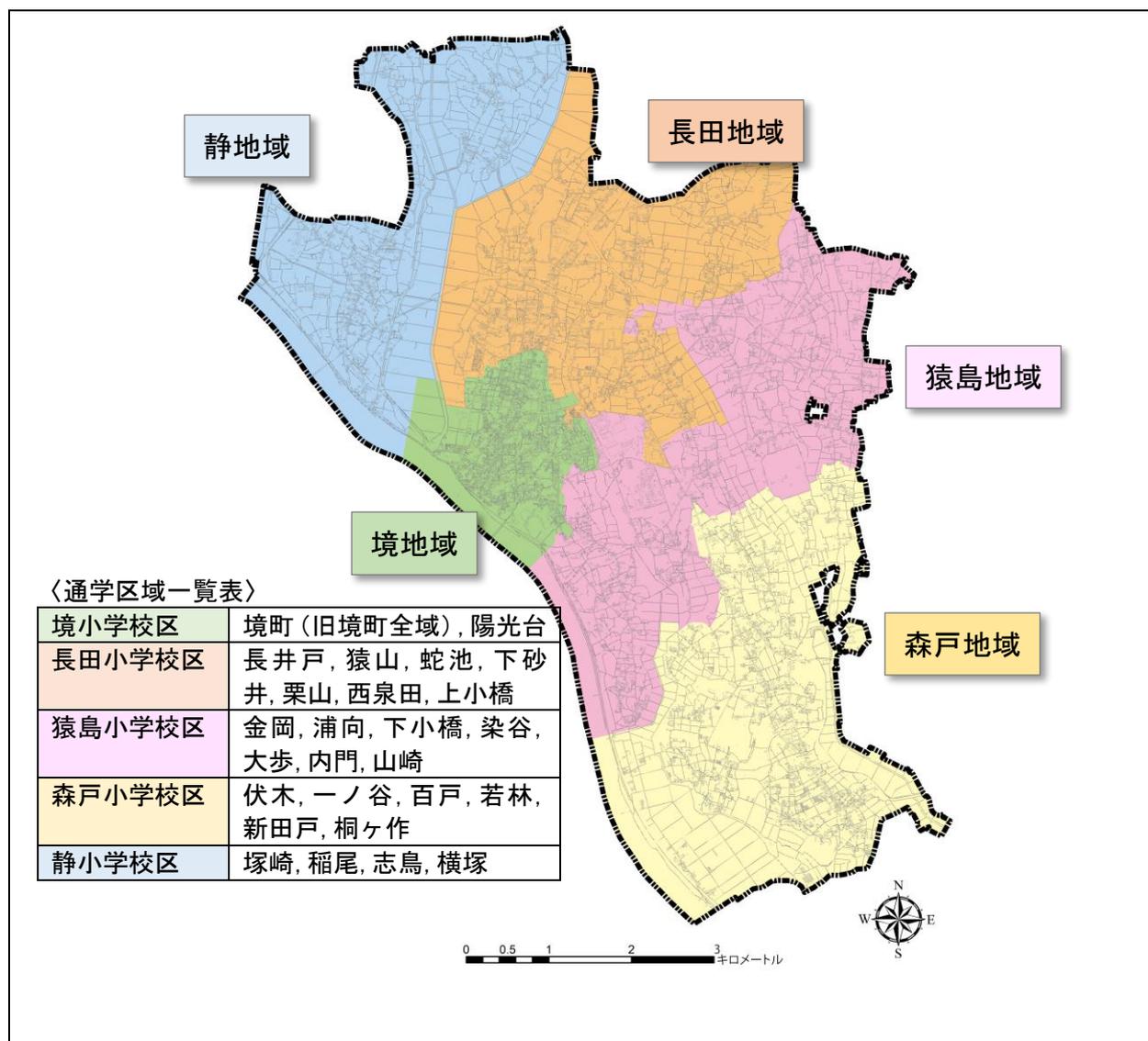
地域別構想

1 地域区分

地域別構想においては、全体構想で示した町全域を対象とした土地利用の考え方、部門別の整備方針等を基に、より生活に密着した「地域」を単位としたまちづくりの目標や方針を示します。

地域別構想は、小学校区単位で以下の5地域に区分して、地域別のまちづくり方針を策定しています。

■地域区分図



2 境地域

(1) 地域の概況

境地域は、町の中心に位置します。地域内には、町の玄関口である道の駅さかい、さかい河岸レストラン茶蔵、役場、茨城西南医療センター病院等、町の主要な施設が立地しています。また、地域の南部には利根川が流れており、観光交流およびレクリエーションの場としての活用が期待できます。

利根川沿いには国道 354 号が通っていて、地域の中央には主要地方道結城野田線および県道尾崎境線が通っています。

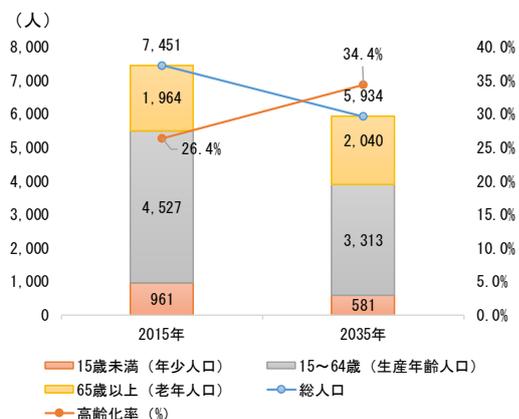
また、地域の中心を路線バスが通っており、境車を起点に本町の最寄り駅となる古河駅、東武動物公園駅、川間駅、春日部駅に乗り入れしています。

地域の西部は 11 号区域に指定されており、市街化調整区域であるものの、住宅が立地可能な状況にあります。

地域の全域が浸水想定区域であり、特に南部は浸水深 5 m 以上の区域に指定されています。

(2) 人口動向

2015 年の人口は 7,451 人であり、最も多くの人口を有しているものの、将来的には人口減少が想定されています。

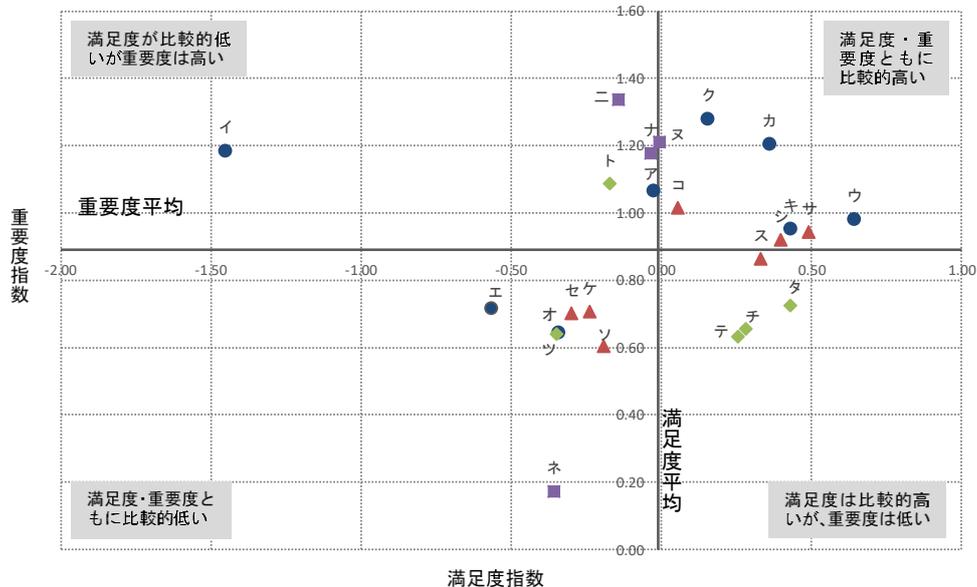


■ さかい河岸レストラン茶蔵



(3) 町民意向

地域の取組に対する満足度・重要度の状況を見ると、満足度が比較的低く、重要度が高い（取組の優先順位が高い）取組として、「自然災害に対する防災対策」や「騒音、悪臭等の公害対策」が挙げられています。一方、重要度、満足度がともに高い取組として「買い物の便利さ」、「病院等の医療福祉施設の充実」が挙げられており、施設が多く立地する、生活利便性の高い地域として評価されている状況にあります。



凡例			
利便性：●			
ア. 通勤・通学の便利さ	イ. 鉄道（駅）の利用しやすさ	ウ. 自動車の利用しやすさ	エ. 路線バスの運行本数
オ. 路線バスのルート	カ. 買い物の便利さ	キ. 役所など行政窓口の充実	ク. 病院など医療福祉施設の充実
都市基盤：▲			
ケ. 広場や公園などの遊び場	コ. 生活道路の整備	サ. 上水道の整備	シ. 下水道の整備
ス. 学校など教育施設の整備	セ. 図書館など文化施設の整備	ソ. 運動・スポーツ施設の整備	
快適性：◆			
タ. 緑や水辺などの豊かな自然環境	チ. 自然的景観の美しさ	ツ. 街並み景観の美しさ	テ. 宅地の広さやゆとり
ト. 騒音、悪臭などの公害対策			
安全性：■			
ナ. 交通安全対策	ニ. 自然災害に対する防災対策	ヌ. まちの防犯対策	ネ. 空き家などの管理及び抑制対策

(4) 地域の課題

- 町の中心として、多くの都市機能の集積を活かした地域づくりが求められます。
- 町の中心として、人口密度の維持、特に活力創出に資する若年層の定住が求められます。
- 利根川の親水空間を活かした地域づくりが求められます。
- 自然災害に対する防災対策の推進が求められます。

(5) 地域の将来像

町内外の人々や都市機能が集積する 賑わい・交流のまち

(6) 基本方針

魅力ある中心市街地・拠点の形成

立地適正化計画との連携による都市機能の維持・誘導

- 将来的な少子高齢化、人口減少が予想される本町においては、町民の生活拠点となる役場周辺や茨城西南医療センター病院周辺、市街地南部における商業集積地での拠点性の向上および生活利便性の高い地域への居住の誘導を図りながら、集約連携型都市構造への移行を推進していくことが求められます。
- まちづくりの目標を実現していくためには、拠点機能の維持・向上と拠点間ネットワークの充実に資する実効性の高い施策展開が求められることから、その具体計画として位置づけられる「立地適正化計画」との十分な連携を図りながら、本計画で位置づけた土地利用方針に即した具体的な誘導方策を展開していくものとします。

市街地における人口密度の確保

- 本町の将来人口推計を見ると、特に本地域の市街地における人口減少が予測されています。市街地における人口減少（人口密度の低下）は町の賑わいの低下や現在ある生活利便施設の撤退につながる恐れがあります。一方、本町では近年多面的な施策の展開により、人口が増加傾向にあります。この人口増加傾向を今後とも維持するため、空き家の活用や拠点における施設集積、誘導等、市街地としての魅力向上により人口密度の維持・確保を図ります。
- 陽光台土地区画整理事業区域については、未だ住宅未利用地が残されていることから、ゆとりある良好な低密度住宅地としての利活用を促進します。

幹線道路沿道における活力ある商店街の形成

- かつて河岸そして宿場町として栄えた主要地方道結城野田線、県道尾崎境線沿道等については、町民の買い回りサービスを支える商店街が形成されています。特に県道尾崎境線沿道においては空き家や空き地が見られることから、未利用地の積極的な利活用により活力ある商店街づくりを進めます。
- 県道尾崎境線等に残る歴史的建造物の保全・活用を推進する等、日光東街道の歴史性を活かした街並み形成による魅力ある商店街づくりを進めます。

安心・快適な交通ネットワークの形成

市街地と広域的な幹線道路を結ぶ都市計画道路の必要に応じた見直し

- 町の骨格を成す都市計画道路の整備を促進するとともに本地域に位置付けられている宮本町・大歩線等の一部の路線については、今後必要に応じて変更・廃止を行います。

東西の連絡を強化する幹線道路の整備検討

- 本地域の市街地と国道 354 号をつなぐ道路について整備を検討します。

安全・安心な歩道の整備

- 都市計画道路や主要な町道を組み合わせながら、安心・快適に徒歩や自転車で学校や主要な公共施設、日常の買い物、歴史や自然的資源等を回遊できる地域づくりを進めます。
- 利根川沿いにおいてはサイクリングロードを最大限活用し、安心して快適に回遊できるネットワークの形成を目指します。

市街地における公共交通の維持

- 本町では、境車庫を基点に、古河駅および東武動物公園駅、川間駅、春日部駅を結ぶ路線バスが運行しています。現在運行している路線は、本地域市街地内を走っており、拠点と拠点、拠点とまちなかの居住地を結ぶとともに、本町と近隣市町村、最寄り駅を結ぶ重要な路線であることから、立地適正化計画を活用したバス路線周辺への居住の誘導や利用促進施策等により維持し、さらなる充実を図ります。

公共交通機関同士の乗り継ぎ利便性・利用環境の改善

- 相互接続による公共交通機関の利便性の向上を図るための新たなバスターミナルについて、本地域の市街地への整備を検討します。

自然的資源・歴史的資源と共生する地域づくり

利根川の親水空間や「道の駅さかい」、「河岸の駅さかい」等と一体となった観光・スポーツレクリエーション拠点の形成

- 本町の西部を流れる利根川周辺については、町民や訪れる人の憩いの場、レクリエーションの場として、サイクリングロードを最大限活用し、観光拠点等を回遊させることで交流人口の増加を目指します。
- 境地域においては、「道の駅さかい」、「さかい河岸レストラン茶蔵」、「河岸の駅さかい」を観光情報発信および交流の場として強化するとともに、茨城百景記念公園、高瀬舟「さかい丸」、河川敷を利用した菜の花プロジェクトの推進等による観光およびスポーツレクリエーション拠点の形成を図ります。

神社仏閣等の歴史的資源を活かした地域づくりの推進

- 本地域は、河岸、宿場町として栄えた地域であることから、吉祥院、香取神社等の神社仏閣や古い商家等の歴史的資源が多く、これらを活用したまちづくりを進めます。

安心して暮らせる居住地の形成

安全・安心な市街地環境の確保

- 本地域の市街地は、町の生活の拠点であるものの、浸水想定区域に指定されており、特に役場周辺等の中心地においても災害危険性の高い状況にあります。そのため、防災アプリの導入等により全町民に危機感を確実に伝えるとともに、水害避難タワー等の避難所、備蓄施設や備蓄品の確保等により、災害時に一人の犠牲者もなく避難できる、安心して暮らせる市街地環境の形成を目指します。

共生社会に対応したまちづくり

- 共生社会に対応したまちづくりを推進するため、歩行空間の確保や各種施設における段差の解消、スロープや点字ブロックの設置等、子どもから高齢者それに障害のある人まで、誰もが安心して利用できるよう、ユニバーサルデザイン等福祉的配慮に基づいた整備を推進します。

若年層の定住に資する環境整備

- 近年の多面的な施策の展開によって、若年層の新規定住者が増えている状況にあります。この状況を維持していくため、立地適正化計画との連携による子育て支援施設の維持・充実や従業地までの移手段の確保、新規居住地の整備等、総合的な定住促進に資する取組を一体的に推進します。

区域指定の必要に応じた見直し

- 本地域の西部には、区域指定（11号区域）がされており、誰でも住宅や共同住宅等一定の用途の建築物を建築することができる状況にあります。区域指定は既存集落の維持・活性化に重要な役割を果たしていることから、区域指定に基づく土地利用により、周辺の田園環境と調和したゆとりある居住地の形成を図ります。
- 同区域の内、利根川沿い（周辺）のエリアについては、氾濫水により、家屋の倒壊等の危険がある家屋倒壊等氾濫想定区域が指定されており、人命・財産への被害リスクが特に高いため、見直し（家屋倒壊等氾濫想定区域に指定されるエリアの11号区域からの除外）を検討します。また、同区域の集落分類は、第2種低層住居専用地域と同じ建築物が立地可能な「市街地周辺集落」に指定されていますが、幹線道路沿いは必要に応じて更に事務所等の立地が可能となる「沿道集落」への見直しを行います。

■方針図



3 長田地域

(1) 地域の概況

長田地域は、町の北部に位置します。地域内には境町総合運動場、ふれあいの里等町の主要施設が立地しています。

2015年に首都圏中央連絡自動車道境古河インターチェンジおよび国道354号バイパスが整備され、現在その周辺において工業系の土地利用が進んでおり、新たな産業拠点としての役割が期待されています。

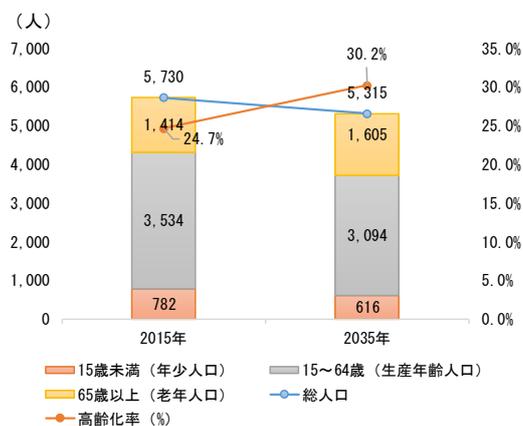
また、地域内には路線バスの発着所となる境車庫があり、境地域の中心部を通過して最寄り駅となる古河駅、東武動物公園駅、川間駅、春日部駅に乗り入れしています。

地域の南部は11号区域に指定されており、市街化調整区域であるものの、住宅が立地可能な状況にあります。

地域の北東部以外は浸水想定区域であり、浸水深0.5～3m未満の区域に指定されています。

(2) 人口動向

2015年の人口は5,730人であり、将来的には人口減少が想定されているものの、その減少率は比較的低い状況にあります。

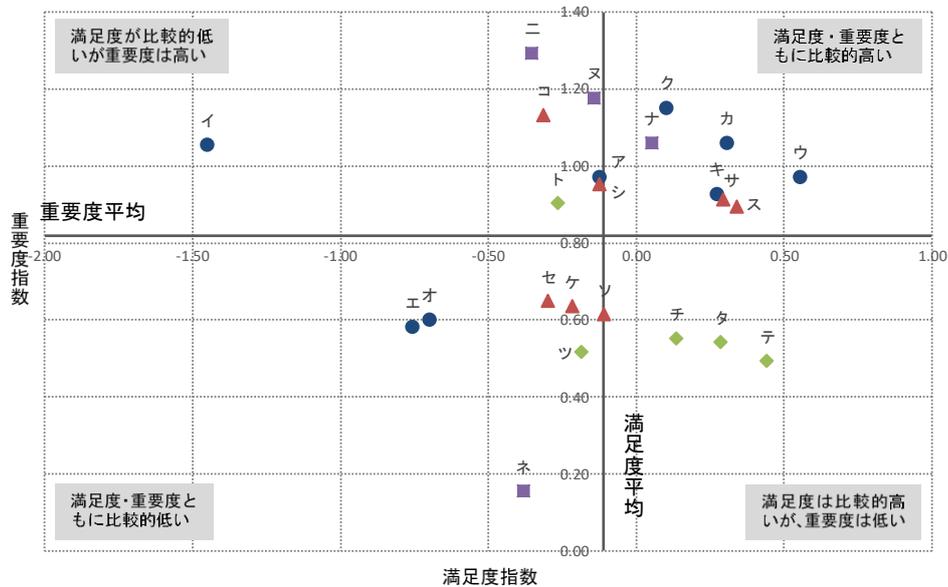


■境古河インターチェンジ周辺



(3) 町民意向

地域の取組に対する満足度・重要度の状況を見ると、満足度が比較的低く、重要度が高い（取組の優先順位が高い）取組として、「自然災害に対する防災対策」や「生活道路の整備」、「騒音、悪臭等の公害対策」が挙げられています。一方、重要度、満足度がともに高い取組として「自動車の利用しやすさ」や「買い物の便利さ」、「病院等の医療福祉施設の充実」が挙げられており、生活利便性の高い地域として評価されている状況にあります。



凡例			
利便性：●			
ア. 通勤・通学の便利さ	イ. 鉄道（駅）の利用しやすさ	ウ. 自動車の利用しやすさ	エ. 路線バスの運行本数
オ. 路線バスのルート	カ. 買い物の便利さ	キ. 役所など行政窓口の充実	ク. 病院など医療福祉施設の充実
都市基盤：▲			
ケ. 広場や公園などの遊び場	コ. 生活道路の整備	サ. 上水道の整備	シ. 下水道の整備
ス. 学校など教育施設の整備	セ. 図書館など文化施設の整備	ソ. 運動・スポーツ施設の整備	
快適性：◆			
タ. 緑や水辺などの豊かな自然環境	チ. 自然的景観の美しさ	ツ. 街並み景観の美しさ	テ. 宅地の広さやゆとり
ト. 騒音、悪臭などの公害対策			
安全性：■			
ナ. 交通安全対策	ニ. 自然災害に対する防災対策	ヌ. まちの防犯対策	ネ. 空き家などの管理及び抑制対策

(4) 地域の課題

- 境古河インターチェンジの開通を活かした土地利用の推進が求められます。
- 文化村やふれあいの里等の既存資源の立地・集積を活かした地域づくりが求められます。
- 既存集落の生活利便性・快適性の維持に資する取組が求められます。
- 高齢化を迎える町民の移動手段の確保が求められます。
- 農地や自然的資源等を活かした地域づくりが求められます。
- 自然災害に対する防災対策の推進が求められます。

(5) 地域の将来像

産業・居住・自然環境が調和した
活力と潤いのあるまち

(6) 基本方針

町の活力創出・生活利便性の向上に資する拠点形成

新産業用地における良好な操業環境と居住環境の形成及び公園の機能強化

- 新たな産業用地として、境古河 IC 周辺地区と猿山・蛇池地区において開発を進めています。
- 境古河 IC 周辺地区に整備する公園については、避難所としての機能強化を図るため都市公園に指定し、災害応急対策に必要な備蓄倉庫及びその他必要な施設の整備を進めます。
- 境古河インターチェンジから半径 1km 以内の指定路線区域については、大規模な物流施設が立地可能な環境であることから、良好な操業環境および住環境の形成を図ります。
- 猿山・蛇池地区についても、市街化調整区域における地区計画の導入により、町の経済の発展に資する施設の誘致を図るとともに、近接する土地についても、新たな産業用地として整備を検討します。

文化村、茨城県境合同庁舎、境警察署等を中心とした都市生活サービス環境の形成

- 文化村、茨城県境合同庁舎、同境工事事務所、境警察署周辺については、町役場周辺との役割分担を踏まえながら施設集積を図るとともに、地域にふさわしい沿道景観の創出や各施設の緑化を進めます。
- 文化村及び境町総合運動場並びに境警察署周辺は、まちなかの拠点を補完する行政機能やスポーツ・文化交流施設等が集約していることから、市街化調整区域における地区計画の導入により、地域の活性化及び交流人口の拡大につながる都市生活サービス環境の形成を図ります。

境町総合運動場における機能拡充

- 境町総合運動場は、文化学習・スポーツ振興の拠点として多くの町民に利用されています。また、地域防災計画において一時避難場所に指定されていることから、避難所としての機能強化を図るため、災害応急対策に必要な備蓄倉庫及びその他必要な施設の整備を進めます。
- 当該運動場は、2020 年東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプ地に内定していることから、さらなる機能充実に向けた競技施設の新規整備を図ります。
- 当該運動場および文化村については、周辺に都市公園がないことから、都市公園へ移行し、管理・保全を図ります。

交流の場としてのふれあいの里の機能充実

- ふれあいの里は、自然とのふれあい、グラウンドゴルフ場を中心としたレクリエーションの拠点として機能維持に努め、さらなる機能強化を図ります。

国際友好交流の証として歴史的資源の保全・活用

- モンテネグロ会館は、長田小学校とアルゼンチン共和国が 1933 年より 80 年以上交流を続けてきた歴史的資源として、更には国際友好交流の証として保全、継承するまちづくりを進めます。

安心・快適な交通ネットワークの形成

安全・安心な歩道の整備

- 都市計画道路や主要な町道を組み合わせながら、安心・快適に徒歩や自転車で学校や主要な公共施設、日常の買い物、歴史や自然的資源等を回遊できる地域づくりを進めます。

広域的な連携の強化に資する国道 354 号バイパスの整備促進

- 国道 354 号バイパスについては、境古河インターチェンジのアクセス道路として、また古河市と坂東市を結ぶ重要路線として、早期の開通を促進します。

南北の連絡を強化する幹線道路の整備促進

- 主要地方道結城野田線バイパスについては、安全で円滑な交通の確保、境古河インターチェンジへのアクセス向上に資する道路として、引き続き歩道拡幅整備を促進します。

町民の生活利便性の確保に向けたデマンド交通等導入の検討

- 本地域の集落は、公共交通の空白地域になっており、人口密度が低いことから、バス交通では事業が成立しにくい状況にあります。
- 今後、さらなる高齢化の進展に伴い、自家用車で自由に外出できない高齢者が増加し、通院等日常生活に支障をきたすことが想定されることから、需要に応じてデマンド交通等の導入を検討します。
- デマンド交通等の導入にあたっては、既存の一般タクシーや路線バスとの役割分担に十分配慮しつつ、適正な運賃設定、効率的な運営委託方式の検討等、導入による過度な財政負担を招かぬよう調整を図ります。また、各種生活利便機能の宅配サービス（移動スーパーなど）を行うなど、町民の生活利便性の確保に向けた多様な方策を検討します。

安心して暮らせる居住地の形成

既存集落の居住環境の整備・保全

- 既存集落については、不必要な拡大を抑制するとともに、コミュニティの維持・活性化に必要な土地利用を展開する際には、周辺の田園景観に配慮するなど、調和のとれた集落景観の形成を図り、居住環境の整備・保全に努めます。
- 今後、町民の高齢化や過疎化等に伴って、空き家の発生が予想されることから、空き家の実態調査に努めながら、適切な管理と活用に取り組みます。

災害時における避難所の維持・充実

- 本地域の北東部以外は浸水想定区域に指定されており、大雨等の災害時には迅速に避難できる環境の形成が求められています。そのような状況を受け、地域内の小学校や中学校、公民館を避難所として指定するとともに、古河市や坂東市と連携した広域避難所の確保に向けた取り組みを進めています。
- 既存避難所についてはその機能の維持・充実を図るとともに、必要に応じ、関係機関との連携のもと、新たな避難所の確保に努めます。
- 避難所となる都市公園等については、機能強化を図るため災害応急対策に必要な備蓄倉庫及びその他必要な施設の整備を進めます。

区域指定の必要に応じた見直し

- 本地域の西部には、区域指定（11号区域）がされており、誰でも住宅や共同住宅等一定の用途の建築物を建築することができる状況にあります。区域指定は既存集落の維持・活性化に重要な役割を果たしていることから、区域指定に基づく土地利用により、周辺の田園環境と調和したゆとりある居住地の形成を図ります。
- 同区域については、将来的な人口減少を見据えた見直しを行います。また、同区域の集落分類は、第2種低層住居専用地域と同じ建築物が立地可能な「市街地周辺集落」に指定されていますが、幹線道路沿いは必要に応じて更に事務所等の立地が可能となる「沿道集落」への見直しを行います。

自然と共生する地域づくり

優良農地の保全と活用

- 本地域に広がる優良農地については、本町の農業を支える生産の場として、また、本町の良好な景観を構成する大きな要素として、将来にわたって適切な管理・保全を図ります。
- 農業生産の場となる農地については、今後も積極的な利用に基づく管理・保全を図りながら、耕作放棄地の発生抑制に努め、質の高い営農環境の維持・向上を推進します。

平地林、斜面林等の地域の自然的資源の保全活用

- 長井戸沼とその周辺の斜面緑地や文化村周辺の平地林等の自然的資源、一言主神社、長井戸城跡、大蛇伝説の池等の歴史的資源については、その保全と活用を図ります。

4 猿島地域

(1) 地域の概況

猿島地域は町の中央に位置します。長田地域とまたがってふれあいの里が整備され、町内外の多くの方から利用されています。また、地域中央には染谷工業団地・下小橋工業団地が立地しています。

地域の南部を国道 354 号、北部を首都圏中央連絡自動車道が通り、また、地域を縦断する形で国道 354 号境岩井バイパスが整備される予定となっています。

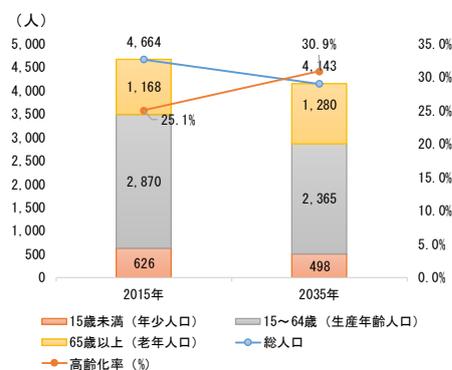
地域内には複数の集落が形成されていますが、公共交通は通っていない状況にあります。

地域の北東部以外は浸水想定区域であり、特に南部は浸水深 3 m 以上の区域に指定されています。

(2) 人口動向

2015 年の人口は 4,664 人であり、将来的な人口減少が想定されています。

高齢化率は 2035 年時点で 30.9%と、町民の約 3 割が高齢者となることが想定されています。

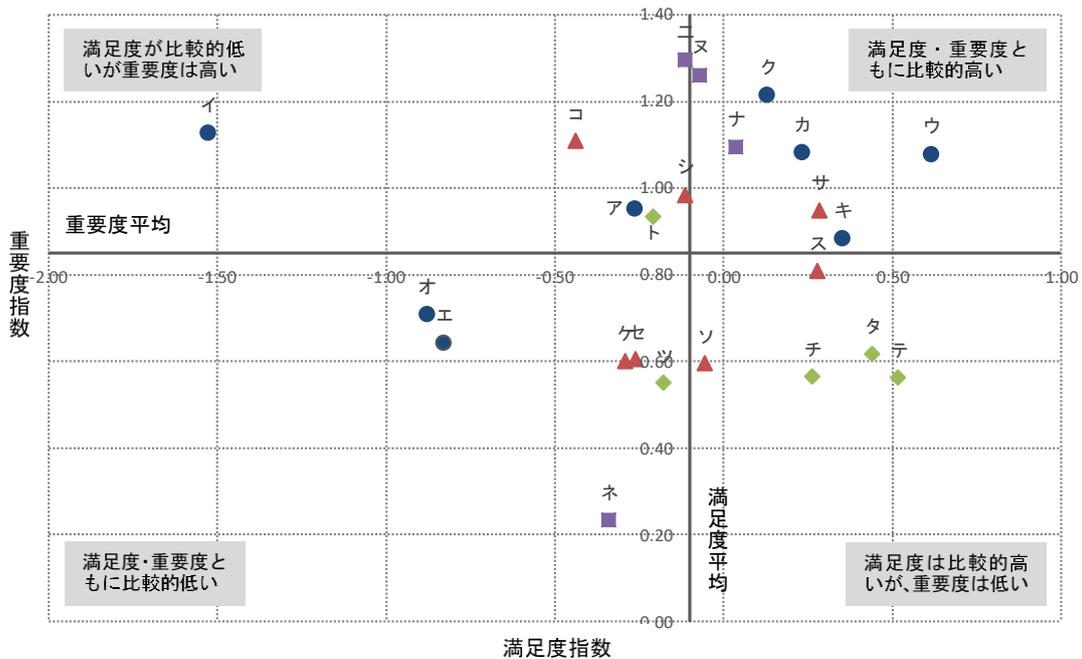


■猿島地域の茶畑



(3) 町民意向

地域の取組に対する満足度・重要度の状況を見ると、満足度が比較的低く、重要度が高い（取組の優先順位が高い）取組として、「自然災害に対する防災対策」や「生活道路の整備」等の安全性・都市基盤の充実に対するものや、「通勤・通学の便利さ」等が挙げられています。一方、重要度、満足度がともに高い取組として「自動車の利用しやすさ」や「買い物の便利さ」、「病院等の医療福祉施設の充実」が挙げられており、生活利便性の高い地域として評価されている状況にあります。



凡例			
利便性：●			
ア. 通勤・通学の便利さ	イ. 鉄道（駅）の利用しやすさ	ウ. 自動車の利用しやすさ	エ. 路線バスの運行本数
オ. 路線バスのルート	カ. 買い物の便利さ	キ. 役所など行政窓口の充実	ク. 病院など医療福祉施設の充実
都市基盤：▲			
ケ. 広場や公園などの遊び場	コ. 生活道路の整備	サ. 上水道の整備	シ. 下水道の整備
ス. 学校など教育施設の整備	セ. 図書館など文化施設の整備	ソ. 運動・スポーツ施設の整備	
快適性：◆			
タ. 緑や水辺などの豊かな自然環境	チ. 自然的景観の美しさ	ツ. 街並み景観の美しさ	テ. 宅地の広さやゆとり
ト. 騒音、悪臭などの公害対策			
安全性：■			
ナ. 交通安全対策	ニ. 自然災害に対する防災対策	ヌ. まちの防犯対策	ネ. 空き家などの管理及び抑制対策

(4) 地域の課題

- 既存集落の生活利便性・快適性の維持に資する取組が求められます。
- 高齢化を迎える町民の移動手段の確保が求められます。
- 農地や自然的資源等を活かした地域づくりが求められます。
- 自然災害に対する防災対策の推進が求められます。

(5) 地域の将来像

工業と農業が調和した 産業振興のまち

(6) 基本方針

水と緑のレクリエーション拠点の整備

地域の魅力を高め、活力をうながす農業公園の整備検討

- 境地域の道の駅との連携のもと、玄関口としての拠点性を高めるために、農産物の直売所や農業体験のできる菜園、心身のリフレッシュを図る温浴施設等のある農業公園（アグリパーク）の整備を検討します。

ふれあいの里との連携、周辺の田園環境との調和した水辺の公園整備の検討

- 境古河インターチェンジとの近接性を活かし、様々な人々の交流の場としての機能強化を図るため、ふれあいの里の南側において、周辺の田園環境と調和した水辺の公園づくりを検討します。
- ふれあいの里は境古河インターチェンジに近接しており、広域交通の結節点でもあることから、今後の利用者ニーズに応じ、バスターミナルとしての機能強化を図ります。

町と地域の発展を支える工業地の整備

既存工業団地における操業環境の向上・必要に応じた拡大

- 本地域に位置する染谷工業団地および下小橋工業団地については、周辺住宅地や田園環境への影響を考慮しながら、操業環境の安定、生産施設の拡大整備等に対応するため、市街化区域の編入、市街化調整区域における地区計画の導入を検討します。

安心・快適な交通ネットワークの形成

安全・安心な歩道の整備

- 都市計画道路や主要な町道を組み合わせながら、安心・快適に徒歩や自転車で学校や主要な公共施設、日常の買い物、歴史や自然的資源等を回遊できる地域づくりを進めます。

広域的な連携の強化に資する国道 354 号バイパスの整備促進

- 国道 354 号境岩井バイパスについては、境古河インターチェンジのアクセス道路として、また地域幹線道路を結ぶ地域にとって重要な路線であることから早期の開通を促進します。

南北の連絡を強化する幹線道路の整備検討

- 本地域を縦断する新たな道路について、整備を検討します。

町民の生活利便性の確保に向けたデマンド交通等導入の検討

- 本地域を含む町の集落地域においては、公共交通の空白地域になっており、人口密度が低いことから、バス交通では事業が成立しにくい状況にあります。
- 今後、さらなる高齢化の進展に伴い、自家用車で自由に外出できない高齢者が増加し、通院等日常生活に支障を及ぼすことが想定されることから、需要に応じてデマンド交通等の導入を検討します。
- デマンド交通等の導入にあたっては、既存の一般タクシーや路線バスとの役割分担に十分配慮しつつ、適正な運賃設定、効率的な運営委託方式の検討等、導入による過度な財政負担を招かぬよう調整を図ります。また、各種生活利便機能の宅配サービス（移動スーパーなど）を行うなど、町民の生活利便性の確保に向けた多様な方策を検討します。

安心して暮らせる居住地の形成

既存集落の居住環境の整備・保全

- 既存集落については、不必要な拡大を抑制するとともに、コミュニティの維持・活性化に必要な土地利用を展開する際には、周辺の田園景観に配慮するなど、調和のとれた集落景観の形成を図り、居住環境の整備・保全に努めます。
- 今後、町民の高齢化や過疎化等に伴って、空き家の発生が予想されることから、空き家の実態把握に努めながら、適切な管理と活用に取り組みます。

災害時における避難所の維持・充実

- 本地域の北東部以外は浸水想定区域に指定されており、大雨等の災害時には迅速に避難できる環境の形成が求められています。そのような状況を受け、地域内の小学校や公民館を避難所として指定するとともに、坂東市や古河市と連携した広域避難所の確保に向けた取り組みを進めています。
- 既存避難所については、その機能の維持・充実を図るとともに、必要に応じ、関係機関との連携のもと、新たな避難所の確保に努めます。

自然・歴史的資源と共生する地域づくり

優良農地の保全と活用

- 本地域に広がる優良農地については、本町の農業を支える生産の場として、また、本町の良好な景観を構成する大きな要素として、将来にわたって適切な管理・保全を図ります。
- 農業生産の場となる農地については、今後も積極的な利用に基づく管理・保全を図りながら、耕作放棄地の発生抑制に努め、質の高い営農環境の維持・向上を推進します。

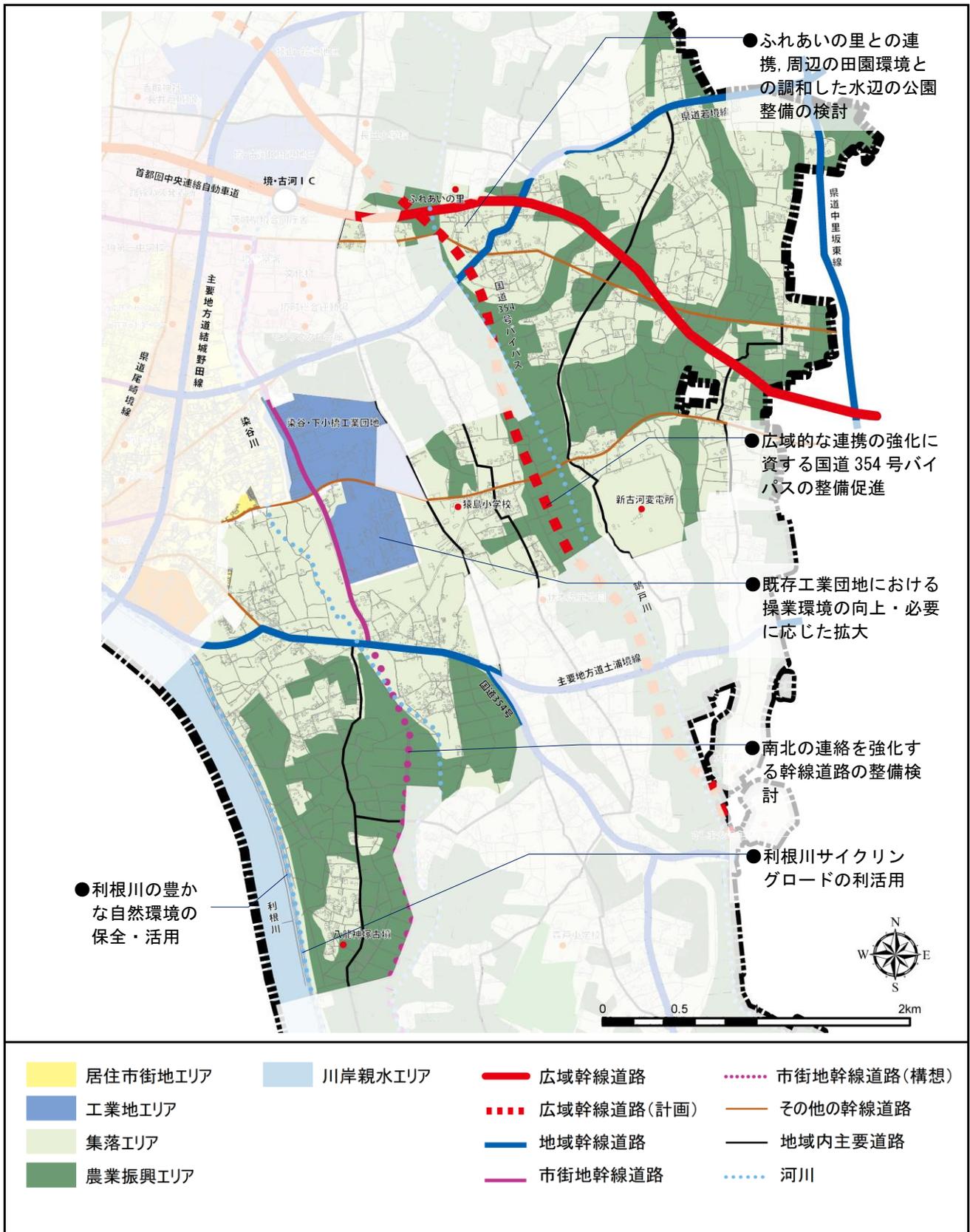
利根川の豊かな自然環境の保全・活用

- 利根川河川敷は、貴重な自然的資源の宝庫であり、その保全と自然と親しめる環境づくりや桜並木の整備を進めます。

歴史的資源の保全・活用

- 八龍神塚古墳等の歴史的資源を保全し、無形民俗文化材「井草大杉囃子」等を活用したまちづくりを進めます。

■方針図



5 森戸地域

(1) 地域の概況

森戸地域は町南部に位置し、坂東市との境界に接しています。大照院周辺の平地林をはじめとして各地に豊かな自然環境が残されています。

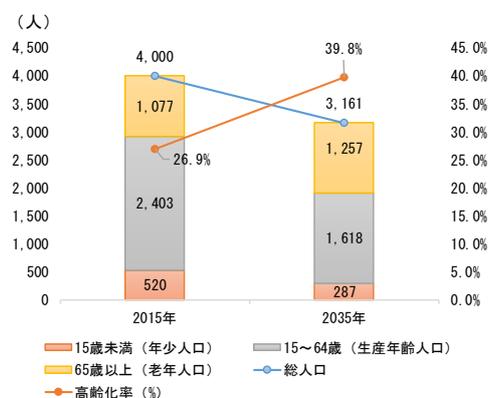
南北には県道伏木坂東線が通り、将来的に国道 354 号バイパスが整備される予定となっています。主要道路沿道等において集落が形成されていますが、公共交通は通っていない状況にあります。

地域の全域が浸水想定区域であり、特に河川が流れる西部と東部では浸水深 5 m以上の区域に指定されています。

(2) 人口動向

2015 年の人口は 4,000 人であり、将来的な人口減少が想定されています。

高齢化率は 2035 年時点で 39.8%と、静地域に次いで高齢化率が高くなることが想定されています。

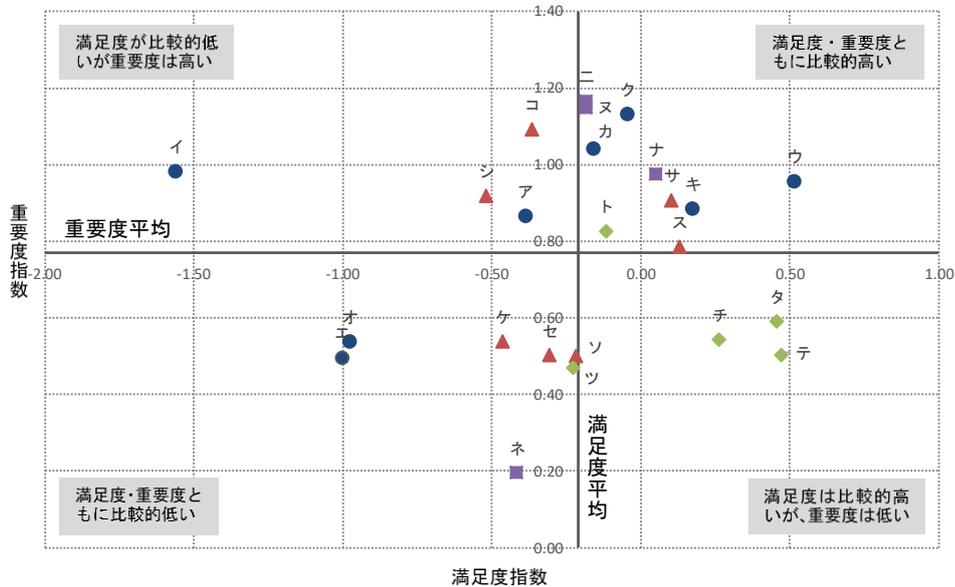


■森戸地域の田園風景



(3) 町民意向

地域の取組に対する満足度・重要度の状況を見ると、満足度が比較的低く、重要度が高い（取組の優先順位が高い）取組として、「下水道の整備」や「生活道路の整備」等の都市基盤の充実に対するものや「通勤・通学の便利さ」等が挙げられています。一方、重要度、満足度がともに高い取組として「自動車の利用しやすさ」や「交通安全対策」等が挙げられています。



凡例			
利便性：●			
ア、通勤・通学の便利さ	イ、鉄道（駅）の利用しやすさ	ウ、自動車の利用しやすさ	エ、路線バスの運行本数
オ、路線バスのルート	カ、買い物の便利さ	キ、役所など行政窓口の充実	ク、病院など医療福祉施設の充実
都市基盤：▲			
ケ、広場や公園などの遊び場	コ、生活道路の整備	サ、上水道の整備	シ、下水道の整備
ス、学校など教育施設の整備	セ、図書館など文化施設の整備	ソ、運動・スポーツ施設の整備	
快適性：◆			
タ、緑や水辺などの豊かな自然環境	チ、自然的景観の美しさ	ツ、街並み景観の美しさ	テ、宅地の広さやゆとり
ト、騒音、悪臭などの公害対策			
安全性：■			
フ、交通安全対策	ニ、自然災害に対する防災対策	又、まちの防犯対策	ネ、空き家などの管理及び抑制対策

(4) 地域の課題

- 既存集落の生活利便性・快適性の維持に資する取組が求められます。
- 高齢化を迎える町民の移動手段の確保が求められます。
- 農地や自然的資源等を活かした地域づくりが求められます。
- 自然災害に対する防災対策の推進が求められます。

(5) 地域の将来像

豊かな自然環境と居住が調和した 癒しのまち

(6) 基本方針

地域の核となるレクリエーション拠点の魅力向上

交流人口拡大に向けた施設の機能充実

- 県立さしま少年自然の家については、多様な交流の場として活用してもらうため、学校 教育や生涯学習にも対応した交流人口の拡大に向けた取組を進めます。
- 兎谷津周辺については、既存の施設を活用しつつ、多様な水辺レクリエーションの場としての整備を検討します。

安心・快適な交通ネットワークの形成

安全・安心な歩道の整備

- 都市計画道路や主要な町道を組み合わせながら、安心・快適に徒歩や自転車で学校や主要な公共施設、日常の買い物、歴史や自然的資源等を回遊できる地域づくりを進めます。

広域的な連携の強化に資する国道 354 号バイパスの整備促進

- 国道 354 号境岩井バイパスについては、境古河インターチェンジへのアクセス道路として、また隣接する坂東市を結ぶ路線として、早期の開通を促進します。

南北の連絡を強化する幹線道路の整備検討

- 本地域を縦断する新たな道路について、整備を検討します。

町民の生活利便性の確保に向けたデマンド交通等導入の検討

- 本地域の集落は、公共交通の空白地域になっており、人口密度が低いことから、バス交通では事業が成立しにくい状況にあります。
- 今後、さらなる高齢化の進展に伴い、自家用車で自由に外出できない高齢者が増加し、通院等日常生活に支障をきたすことが想定されることから、需要に応じてデマンド交通等の導入を検討します。
- デマンド交通等の導入にあたっては、既存の一般タクシーや路線バスとの役割分担に十分配慮しつつ、適正な運賃設定、効率的な運営委託方式の検討等、導入による過度な財政負担を招かぬよう調整を図ります。また、各種生活利便機能の宅配サービス（移動スーパーなど）を行うなど、町民の生活利便性の確保に向けた多様な方策を検討します。

安心して暮らせる居住地の形成

既存集落の居住環境の整備・保全

- 既存集落については、不必要な拡大を抑制するとともに、コミュニティの維持・活性化に必要な土地利用を展開する際には、周辺の田園景観に配慮するなど、調和のとれた集落景観の形成を図り、居住環境の整備・保全に努めます。
- 今後、町民の高齢化や過疎化等に伴って、空き家の発生が予想されることから、空き家の実態把握に努めながら、適切な管理と活用に取り組みます。

災害時における避難所の維持・充実

- 本地域は全域が浸水想定区域に指定されており、大雨等の災害時には迅速に避難できる環境の形成が求められています。そのような状況を受け、地域内の小学校や中学校、公民館を避難所として指定するとともに、坂東市と連携した広域避難所の確保に向けた取り組みを進めています。
- 既存避難所については、その機能の維持・充実を図るとともに、必要に応じ、関係機関との連携のもと、新たな避難所の確保に努めます。

自然・歴史的資源と共生する地域づくり

優良農地の保全と活用

- 本地域に広がる優良農地については、本町の農業を支える生産の場として、また、本町の良好な景観を構成する大きな要素として、将来にわたって適切な管理・保全を図ります。
- 農業生産の場となる農地については、今後も積極的な利用に基づく管理・保全を図りながら、耕作放棄地の発生抑制に努め、質の高い営農環境の維持・向上を推進します。

利根川の豊かな自然環境の保全・活用

- 利根川河川敷は、貴重な自然的資源の宝庫であり、その保全と自然と親しめる環境づくりの整備を進めます。

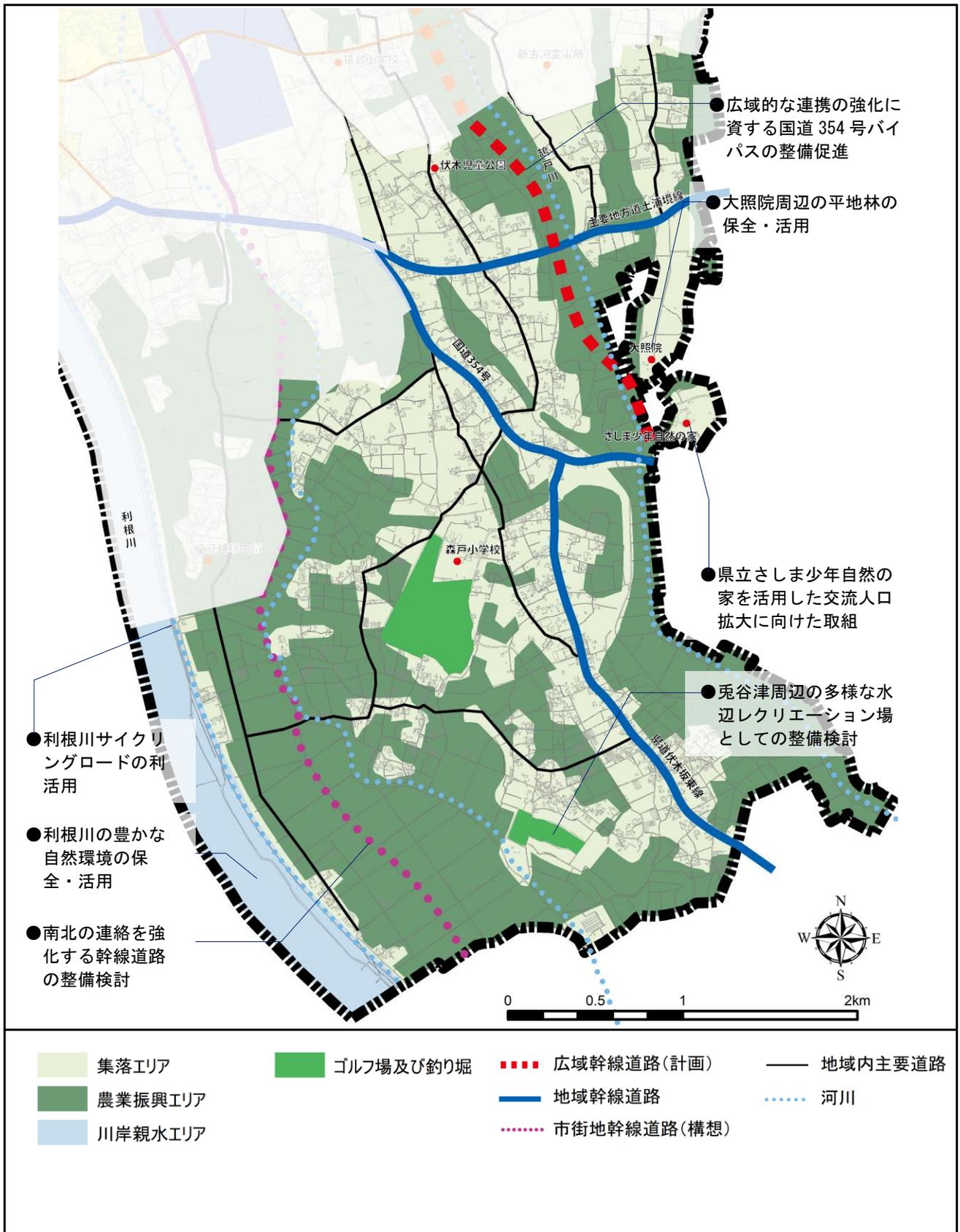
大照院周辺の平地林の保全・活用

- 大照院周辺に残るまとまった平地林については、県立さしま少年自然の家との連携を図りながら、レクリエーションの場、自然とのふれあいの場、子どもたちの学習の場としての保全と活用を図ります。

レジャー施設等と連携した交流人口の増加

- 本町唯一のゴルフ場およびゴルフ練習場、兎谷津へら鮎センター（つり堀）、県立さしま少年自然の家等に来場する利用客を、町内の観光拠点に回遊させることで交流人口の増加を目指します。

■方針図



6 静地域

(1) 地域の概況

静地域は町の北西部に位置し、古河市との境界に接しています。地域の西部には塚崎工業団地が立地しています。また、長井戸沼土地改良区をはじめ、豊かな田園風景が広がっています。

地域の西部を南北に新4号国道、東西に首都圏中央連絡自動車道および国道354号が通っており、2018年には国道354号古河境バイパスが新4号国道まで事業化される等、広域の交通体系が充実している地域となっています。

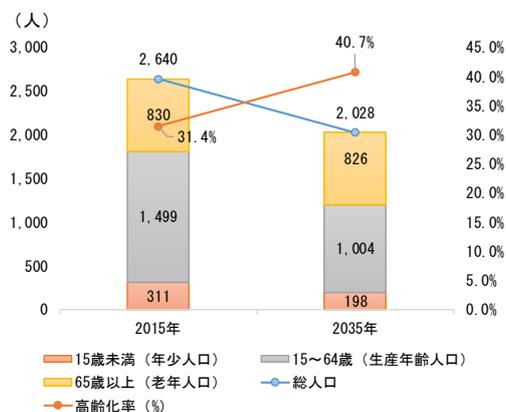
国道354号沿道等において集落が形成されており、古河市（古河駅）方面へ向かう路線バスが通っています。

地域のほぼ全域が浸水想定区域であり、特に西部や北部は浸水深5m以上の区域に指定されています。

(2) 人口動向

2015年の人口は2,640人であり、地域のなかでも人口が少なく、将来的な人口減少率も最も高くなることが想定されています。

高齢化率は2035年時点で40.7%と、地域のなかでも最も高齢化率が高くなることが想定されています。



■ 塚崎の獅子舞



(5) 地域の将来像

広域利便性の高さと豊かな自然環境を活かした
活力と安らぎのまち

(6) 基本方針

地域の活力創出に資する土地利用の検討

町と地域の発展を支える工業地の拡大検討

- 本地域には、新 4 号国道に近接して塚崎工業団地が立地しています。境古河インターチェンジの開通やその周辺における産業拠点の形成、今後、国道 354 号古河境バイパスが整備されることにより、新 4 号国道へのアクセスが良好となり、物流施設等の立地ニーズが高まることが想定されることから、必要に応じた工業団地の拡大を検討します。
- 国道沿いの立地特性を活かした新たな産業拠点の整備を検討します。

安心・快適な交通ネットワークの形成

東西の連絡を強化する幹線道路の整備検討

- 本地域と境地域をつなぐ幹線道路について整備を検討します。

安全・安心な歩道の整備

- 都市計画道路や主要な町道を組み合わせながら、安心・快適に徒歩や自転車で学校や主要な公共施設、日常の買い物、歴史や自然的資源等を回遊できる地域づくりを進めます。

広域的な連携の強化に資する国道 354 号バイパスの整備促進

- 国道 354 号古河境バイパスについては、境古河インターチェンジと新 4 号国道とのアクセス道路として早期の開通を促進します。

古河市へ繋がる公共交通の維持

- 本地域には、境地域から古河市（古河駅）方面へつながる路線バスが通っています。当該路線は、町民の日常の生活利便性や通勤利便性の向上に寄与するものであることから、バスルート沿線における人口の確保、利便性の向上等により、公共交通の維持に努めます。

安心して暮らせる居住地の形成

既存集落の居住環境の整備・保全

- 既存集落については、不必要な拡大を抑制するとともに、コミュニティの維持・活性化に必要な土地利用を展開する際には、周辺の田園景観に配慮するなど、調和のとれた集落景観の形成を図り、居住環境の整備・保全に努めます。
- 今後、町民の高齢化や過疎化等に伴って、空き家の発生が予想されることから、空き家の実態把握に努めながら、適切な管理と活用に取り組みます。

災害時における避難所の維持・充実

- 本地域はほぼ全域が浸水想定区域に指定されており、大雨等の災害時には迅速に避難できる環境の形成が求められています。そのような状況を受け、地域内の小学校、公民館を避難所として指定するとともに、古河市と連携した広域避難所の確保に向けた取り組みを進めています。
- 既存避難所については、その機能の維持・充実を図るとともに、必要に応じ、関係機関との連携のもと、新たな避難所の確保に努めます。

地域、町全体の防災性の向上に資する河川防災ステーション設置の促進

- 本地域および町全体の防災性の向上に資する河川防災ステーションの設置を促進します。同ステーションは、洪水時には市町村が行う水防活動を支援し、災害時には緊急復旧等を迅速に行う基地となるとともに、平常時には河川を中心とした文化活動の拠点としての活用が期待されます。

自然・歴史的資源と共生する地域づくり

優良農地の保全と活用

- 本地域に広がる優良農地については、本町の農業を支える生産の場として、また、本町の良好な景観を構成する大きな要素として、将来にわたって適切な管理・保全を図ります。
- 農業生産の場となる農地については、今後も積極的な利用に基づく管理・保全を図りながら、耕作放棄地の発生抑制に努め、質の高い営農環境の維持・向上を推進します。
- 本地域の北部に広がる畑地については、畑作農業経営の体質強化のため、基盤整備等により、質の高い営農環境の維持・向上を目指します。

自然環境の保全・活用

- 利根川河川敷や長井戸沼用水およびその周辺の水田地帯等は、貴重な自然的資源の宝庫であり、その保全を図るとともに、自然と親しめる環境づくりを進めます。
- 本地域の北部には平地林が広がっており、豊かな森林の保全と活用に努めます。

歴史的資源の保全・活用

- 香取神社、横塚古墳群等の歴史的資源を保全し、350年以上前より継承されている茨城県の無形民俗文化財「塚崎の獅子舞」を活用したまちづくりを進めます。

■方針図

